

# 萌黄 (もえぎ) 通信



このたびの大規模地震により被害を受けられました皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。皆さまの安全と一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。 |

この会報誌をお読み頂いている皆さまは、お変わりなく過ごしていますか？ 3月11日の大地震の日、私は小平市にあるお寺で仕事をしていました。木造建築物の中での仕事でしたが、築150年の建物は、きしみながら揺れ、敷地内の、灯籠が2、3基倒れたり、鐘つき堂の鐘が前後左右にゆれて勝手に鐘が鳴ったりして異様な光景に見舞われました。

現場を早めに終わらせて帰ろうとした時には、高速道路は通行止めになって、他の交通機関も麻痺して、渋滞の中帰るのに、8時間以上もかかってしまいました。パニックが起きると、都会はいろんなものが機能しなくなるのを実感した一日でした。

## 「津波実験」

今回の大地震は、地震の被害もさることながら、津波の被害が凄まじいという印象を受けています。先日、水族館に行こうと思い、



東海大学の海洋科学博物館に行きました。津波をテーマにしたコーナーがいくつかあり、津波を再現するブースもあったので、魚を見るよりもこちらの方に時間を割いてしまった感じでした。模型で、入江近くに家を作り、10mの津波を想定しての実験でしたが、テレビで見た映像の方がはるかに凄くて、とても現実味がない感じでしたが、津波に対する知識が少しだけでも増えたので見学出来てよかったです。

## 「シールのシミ抜き施工」

今月の石材メンテナンスは、マンション・エントランスの床石の目地部分にシール施工をしたのですが、写真のような濡れジミが出てしまうということでシミ抜き施工の依頼がきました。シールは防水効果があるので、石の小口部分から出る湿気を通さないで、石の四方に額縁状のシミを作ることがしばしばあります。原因は石の裏面に水分が回っていたり、シール自体の油分と入り混じったりしてシミを作ってしまうようです。対処方法は、シールを切り出し、更に、石の下地が見えてくるまで、カッター等で削ぎ、最後に、サンドペーパーやサンダー使用します。石の下地が見えてきたら、 ↑

シミ抜きを行うのですが、今回の現場のように、石自体も経年変化で汚れている場合は、施工範囲の全体洗浄を行い



その後にシミ抜き作業になります。アルカリ洗剤とシミ抜き剤を併用しながら、シミ抜きを行います。

今回は、施工後には目地モルタルを入れ直すとのことで、以前よりも通気性が



良くなりシミは出なくなるのではないかと思います

## 「テラゾーへ防汚コート」

ある市民文化ホールの改修工事で大理石の粉を混ぜ合わせたテラゾーを敷いた現場からです。セラミックタイルを含め、汚れにくい素材としてよく使用されていますが、実は、タイル表面には非常に微細な穴があり、その中に入り込んだ汚れは取れにくい傾向があります。そこで、その微細な穴を埋める事で、汚れを防止するコート剤を塗布してきました。しかし、このコート剤は、乾燥が早く、塗布した後は、2人一組ですぐに追っかけ拭き上げが必要で、600㎡分を中腰状態で行い結構きつい作業となりました。



(編集後記) 昨年4月に、39キロオーバーで一発免停になって、今月でやっと1年間になります。何とか無事に乗り切って点数をゼロにしたい所です。年間5万キロ近く運転するから、車が運転出来ないと仕事にならないですね。

萌黄通信 毎月1回発行

発行編集責任者 (株) ケイ・アンド・エス 堀内貢次

(東京出張所) 東京都港区浜松町1-1-10 タスク内

(電話) 03-3431-1293 (Fax) 03-3431-7198

<http://www.e-kands.jp>

(メール) [info@e-kands.jp](mailto:info@e-kands.jp)